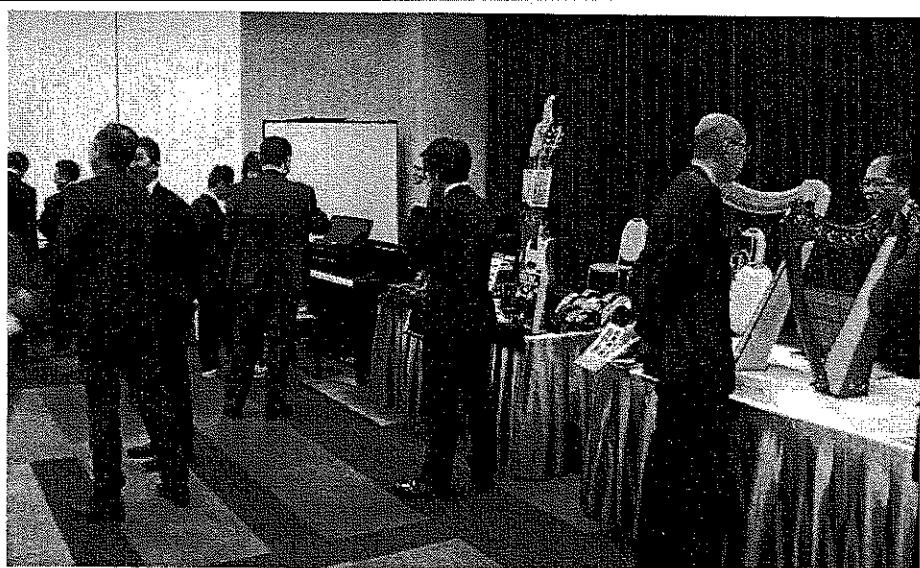


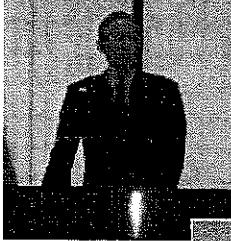
地方に波及効果を期待、さらなる市場活性化へ！

北陸三県合同楽器商交流会

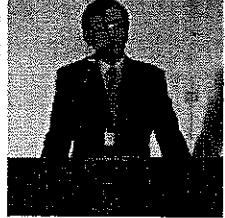
◎昨年を上回るメーカー・卸24社、小売店31社が参加



開場と同時に多くの参加者が詰めかけ出展社から熱心に説明を受けていた



挨拶に立った福井県楽器商組合長（上）、斎藤宰 西部楽器製造協会会長



昨年初の試みとして開催され好評を博した「北陸三県合同楽器商交流会」が、今年も2月25日、JR金沢駅前のホテル金沢4階エメラルドームに、メーカー・卸24社、小売店31社が参加して開かれた。主催は石川県楽器商組合（山崎隆志組合長）、富山県楽器商組合（田島隆一組合長）、福井県楽器商組合（浜詰将生組合長）の北陸三組合。

昨年の参加者からはアンケートで「大変勉強になった」「多くのメーカー、小売店の方と話しができ有意義であった」「参加者のやる気、活気を感じた」「見てもらう、聞いてもらう、体験してもらう、ことができ貴重な時間となつた」「メーカー、卸、小売の三位一体の協力体制を作れる貴重な場であると感じた」など、好意的な意見がほとんどであったが、「オーナーの方が多く、もっと店長クラスや担当者にも来てほしい」という要望もあり、今回はオーナーのみならず店舗責任者やスタッ

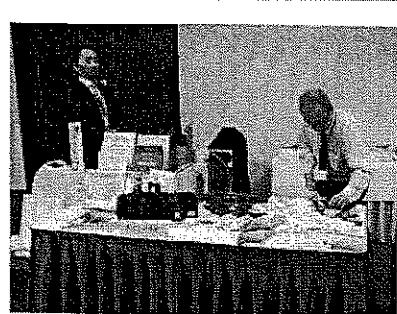
フの姿も多く見られた。挨拶に立った浜詰組合長は「昨年以上多くの方のご参加いただいたのは、メーカー、卸、小売店の方々の樂器ビジネスにおける市場への真摯な取り組みと今後への関心の高さと捉えていました。つい1週間前に『世界の有名ブランドグランドピアノ試弾会』を石川県立音楽堂交流ホールで行いましたが、そちらもたくさんの方の参加申し込みがあり、たいへん好評をいただきました。

昨年、新幹線が金沢まで開通し、東京圏と2時間半で結ばれました。観光面ではかなりの経済効果があると聞きますが、逆に金沢から東京まで樂器を買いに行くのも非常に便利になります。将来、福井まで開通するとそういうことが当たり前になり、我々地元樂器店にとっては脅威です。まさに新幹線が非常に怖い存在になります。そんな状況下、こうした交流会を利用して、メーカーさん、卸さんと意見を交換しながら難局を乗り切つていかなければなりません。情報をしっかりと集めて対策を立て、ビジネスに役立ててくださいためにも、この場で何かヒントを掴んでいただければ幸いです」と、交流会の意義を力強く語った。

続いて西部楽器製造協会の斎藤宰会長は「樂器業界を取り巻く環境は依然として厳しく、他業界に比べて非常に



懇親会で挨拶する富山県楽器商組合の田島隆一組合長



プリマ楽器はオカリナを中心とした展示



コルグはサカエのスネアとWAVEDRUMを積極的にアピール

全国ファミリー音楽コンクールのPRに駆け付けた四日市文化振興課の小林春美課長（左）と中野千幸さん

楽器商交流会展示・参加社

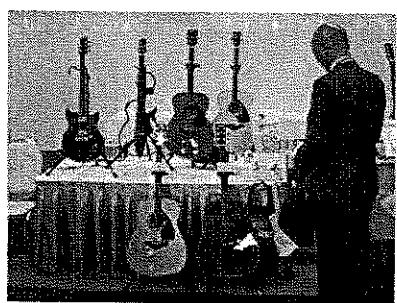
青山ハーブ、アヒバ、大阪フェルナンデス、大阪村上楽器、カシオ計算機、グローバル、こおろぎ社、コルグ、鈴木楽器製作所、鈴木楽器販売、すみやグッディ、全音楽譜出版社、第一楽器、高峰楽器製作所、新見楽器、パール楽器製造、ピュッフェ・グループ・ジャパン、プランニング・ヤマコウ、プリマ楽器、マック・コーポレーション、マツイシ楽器店、松沢書店、モリダイラ楽器、ヤマハ、ヤマハミュージックジャパン、ライリスト社、ローランド、全国楽器協会、全国楽器小売商組合連合会事務局



モリダイラ楽器はお馴染みモーリスギターを展出



多数の鍵盤ハーモニカを並べた鈴木楽器販売



LM50周年を迎えるヤマハはギターをアピール



取扱商品のアイテム数では群を抜く新見楽器は小物を中心に

柱であるという話もあり、そういうふたつを考え方もあると納得しました。また、2月22日の猫の日にについて、テレビでその経済効果が2兆円を超えるという話を聞き、北陸三県を合わせた経済規模を軽く超える数字にビックリ。樂器業界は自動車業界とは比較にならないほどの小さな規模ですが、でもそれがいいのか、我々はどうすればいいのか。先ほど述べた樂器、音樂を心の支えとして、生活に欠かせないものとして、心の潤いや安定に大きく貢献していく産業であることを自覚すべきだし、そういうものを供給する立場にあるといふ、ある種のプライドを持つて仕事を向き合っていくべきではないでしょうか。政府主導のアベノミクスの成果がいつ表れるのかはわかりませんが、私たちには日々与えられた使命と精神的な面での貢献を胸に、ビジネスに向かっていかなければと思ひます」と、樂器業界の課題と可能性に期待を込めた。

また、来賓として挨拶に立った全国樂器協会の大村一弘氏は「現在、我々全国樂器協会は社団法人化という改革を進めています。製造、卸、小売の方が一堂に会した交流会は全樂協に入会するメリットを体感いただける場でもあり、こういった交流会が全国各地で開催されることにより樂器業界が活性化することは間違いないありません。全樂協としてもこういう活動は積極的にサポートしていきたいと考えています」と、交流会の各地への広がりに期待を寄せた。

その後の商品説明会では、青山ハープ、カシオ計算機、こおろぎ社、鈴木楽器販売、全音楽譜出版社、ピュッフェ・グループ・ジャパン、プリマ楽器、ヤマハミュージックジャパンの8社が、各10分の持ち時間でプロジェクトマネージャーを使用した自社の商品説明、販売状況、デモ演奏などを行つた。

午後4時からは石川、富山、福井各县それぞれの樂器商組合の年度総会を実施。午後5時からは会場を5階のパティオホールに移し懇親会が行われ、各テーブル初対面の人も多く、名刺交換や情報交換、市況など食事を楽しみながらの会話で懇親を深めた。

情報網、流通網とも一段とスピードアップが要求され、大手ネット通販サイトの参入など業界の直面する課題は決して少なくない。ただ一対一の情報交換、対面による商品説明が非常に有用であることは参加者が増えていることでも明らか。こうした交流会が各地に広がっていくことを期待する声はメーンカーネン、卸にも多い。経費負担というハードルはあるが、今回のように各樂器商組合の総会を同時にを行うことにより、参加樂器店の負担も軽減される。各地の樂器商組合の反響、今後の動きも注目される。

(石原)